

広報担当が聞く!

教えて! 村長さん

村が売却した温泉施設のその後
～瑠璃、木の香湯、ウイナスについて～

今回は皆さんの心と身体を癒し、健康づくりにもつながる村の温泉施設について、現状と今後の展望をお伝えします。



木の香湯オープンセレモニーで挨拶をしました

Q まずは、民間への譲渡に至った背景を教えてください。

A 村では、厳しい財政状況の中であっても、持続可能で魅力的な施設運営を行うためにはどうすべきかを慎重に検討してまいりました。その結果、行政による運営ではなく、民間の優れた経営ノウハウや創意工夫を取り入れることこそが、施設の魅力を最大化し、ひいては地域の活性化につながると判断しました。
この方針のもと、吉良前村長時代に優良な提案をいただいた事業者にそれぞれ施設が売却されました。

Q 各施設の特徴と現状は?

A 【白水温泉「瑠璃」】

当初売却先の経営不振から新たな譲渡先株式会社ウィールにつなぎ、昨年8月に温泉施設が再開。3月1日より、営業時間を延長し午前11時～午後8時として営業しています。趣の異なる2つの大浴場「こづみの湯」「かけぼしの湯」と、3つの家族風呂があります。大浴場は男女が週替わりで入れ替わるため、来館のたびに異なるお湯をお楽しみいただけます。

【木の香湯】

鹿児島市に本社を置くIT企業(有限会社「ロン」)に売却。3月28日には、熊本地震から10年ぶりに温泉施設が先行オープンし、5月末には宿泊施設もオープン予定です。阿蘇の山々を望む雄大な露天風呂や源泉かけ流しの大浴場、心地よいサウナを備えています。特にお体の不自由な人や車椅子の人にも安心してご利用いただけるよう、浴場エリアの段差を極力なくしたユニバーサルデザインを採用しているのが特徴です。

【ウイナス】

令和6年度末に、熊本市に本社を置く株式会社KSMYに売却。令和7年度から準備期間に入っていますが、再開にはまだ越えるべきハードルがあります。事業者の人たちの知恵と努力によって準備が進められており、引き続き村としても早期再開を後押ししていきます。

Q 最後に、今後の展望と村民の皆さんへメッセージをお願いします!

A 私は、温泉施設を売って終わりではなく、売却後の安定経営に村としても連携・関与していくことが重要だと考えています。村民に愛された温泉施設は引き続き、民間企業と連携を密にしながら村民の福祉向上という原点を忘れず、持続可能な経営を目指してまいります。
また、皆さんのさらなる健康増進と利用促進のため、村の「いきいき入浴補助」事業を拡充いたしました。対象年齢をこれまでの70歳から65歳へ引き下げ、補助金も200円から300円

に引き上げています。
村内にたくさんある温泉施設をぜひご堪能いただき、皆さんの健やかな毎日を支えていけるよう、全庁を挙げて取り組んでまいります。



木の香湯の外観



瑠璃の入り口